

令和2年度第3回 感染症発生動向調査部会

令和2年11月18日

月番：加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2020年第40週～第44週・10月）

<全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 結核は35例の報告があった。うち90歳以上が6例である。本年累計は前年比83.8%である。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の3例の発生があったが、本年累計は昨年比して21.4%と減少している
- ・ レジオネラ症は毎週報告されているが、累計は昨年比72.9%と少ない。
- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症は、5例の報告がある。昨年累計は6例であり、1か月の報告としては多い。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症は、2例の高齢者に発生が見られた。

<定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 新型コロナ感染症に対して感染対策を行ったためと思われるが、定点把握疾患全体が昨年と比較して減少している。
- ・ インフルエンザは、前年同期比6.1%と非常に少ない。
- ・ 例年秋に流行するRSウイルス感染症の報告は0件であった。
- ・ インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎は前月より増加しているが、前年と比較してかなり少ない。
- ・ 新型コロナ感染症は、9月、10月は7月、8月と比較して発生が減少した。（その後11月に増加している。）

2 検討すべき課題

- ・ 新型コロナ感染症の感染予防の啓発について（若者や外国人に対してどうやって啓発を行うか）

3 情報提供すべき事項

- ・ インフルエンザワクチンの不足状況

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ ユニバーサルマスクは、COVID-19感染の伝播防止だけではなく、感染者の重症度を減らす可能性あり
Masks Do More Than Protect Others During COVID-19: Reducing the Inoculum of SARS-CoV-2 to Protect the Wearer. J Gen Intern Med 35(10):3063–6 DOI: 10.1007/s11606-020-06067-8 © Society of General Internal Medicine 2020
Facial Masking for Covid-19 — Potential for “Variolation” as We Await a Vaccine. N Engl J Med 383;18 nejm.org october 29, 2020 DOI: 10.1056/NEJMp2026913

- ・ 厚生労働省老健局「介護現場における感染対策の手引き 第1版」
高齢者施設等にて、新型コロナ、それ以外の感染対策をまとめた手引きを発行
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000678253.pdf>

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチンの供給見通しについて
- ・ ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種の対応について/ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の対象者等への周知について
- ・ 季節性インフルエンザワクチンの供給について（更新情報）
- ・ 高病原性鳥インフルエンザ（H5亜型）が疑われる事例の発生について（情報提供）
- ・ 直近の特記事項について

<検討結果>